

第3回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム

江湖派研究

—新たな可能性に向けて—

2013年11月23日(土) 13:00–18:00

於 早稲田大学早稲田キャンパス 16号館308教室

総合司会 内山 精也(早稲田大学)

part 1 13:00~14:15 江湖詩人の位相

司会 内山 精也

I. 阿部 順子 (慶應義塾大学) : 戴復古の謁客詩について
——その修辞技法の特徴と干謁の実相——

II. 浅見 洋二 (大阪大学) : 江湖派と陸游・楊万里

part 2 14:30~16:00 江湖詩人と禅僧、儒学、詩学

司会 浅見 洋二

III. 種村 和史 (慶應義塾大学) : 嚴粲は朱熹の詩経研究を
どのように受け継いだか? —『詩緝』所引朱熹詩説考—

IV. 朱 剛 (復旦大学) : 僧詩、“晚唐體”與“江湖詩人”
——從《聖宋高僧詩選》談起——

V. 東 英 寿 (九州大学) : 劉克莊の鑑定眼
——その詩文創作觀との関連——

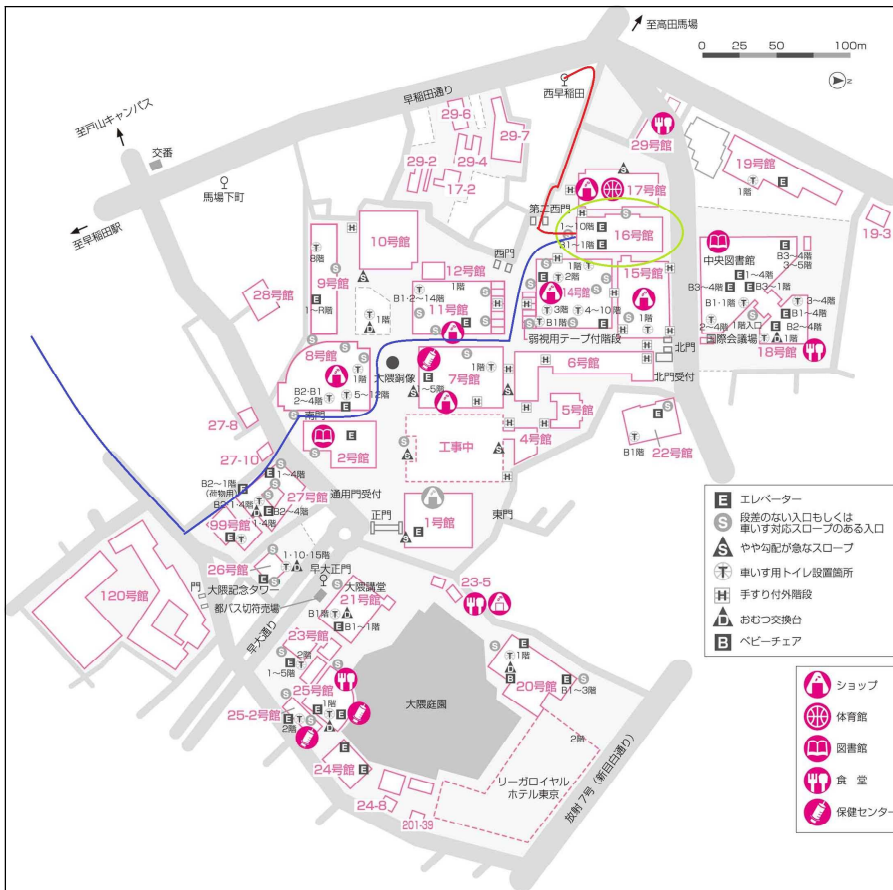
part 3 16:15~17:15 廟堂との距離

司会 衣 若 芬
(新加坡南洋理工大学)

VI. 熊 海 英 (江漢大学) : 詩在“江湖”
——被邊緣化的詩人和作為詩歌場域的“江湖”——

VII. 張 健 (香港中文大学) : 江湖與廟堂之間
——晚宋詩歌的邊緣化及詩人群體的游士化——

part 4 17:25~18:00 総合討論



赤のラインは、JR山手線「高田馬場」から、都バス「早大正門」行きに乗った場合の経路です。高田馬場駅の「早稲田口」の真向かいに、「早大正門」行のバス停があります。二つ目の「西早稲田」で下車してください。乗車時間は5～8分。下車後は、赤いラインに沿ってお進みください。運賃は170円です。

青のラインは、地下鉄東西線「早稲田」駅からの経路です。徒歩7、8分です。

シンポジウム終了後、懇親会を催します(場所未定)。こちらも、お気軽にご参加ください。

— 発表要旨 —

I.

戴復古の謁客詩について

—その修辭技法の特徴と干謁の實相—

慶應義塾大学非常勤講師 阿部 順子

江湖派詩人の作品には、彼らが有力者に對して「干謁」を行なう際に送った詩、いわゆる「謁客詩」が多く残存している。謁客詩については、その詩を通じて、ほとんどが布衣の士大夫であった江湖派詩人を政治的・經濟的弱者とみなし、その弱者ならではの悲哀や惨めさといった不幸な境遇を読み取ろうとする研究が多くなされてきた。本発表では、江湖派を代表する詩人である戴復古の謁客詩を取り上げ、その修辭上の特徴を明らかにすると同時に、その修辭技法から推察される干謁の實相の一側面を考察する。

II. 江湖派と陸游・楊万里

大阪大学大学院教授 浅見 洋二

南宋の詩史において最も重要な位置を占めるのは、陸游と楊万里であろう。江湖派について考えるときも、彼らの存在を無視することはできない。本発表では、江湖派詩人のなかでも特に劉克莊を取りあげ、陸游・楊万里と比較するかたちで考察を加えてみたい。

III. 嚴粲は朱熹の詩經研究をどのように受け継いだか？

—『詩緝』所引朱熹詩說考—

慶應義塾大学教授 種村 和史

嚴粲は、呂祖謙『呂氏家塾讀詩記』・朱熹『詩集伝』と並ぶ、南宋詩經学の代表作『詩緝』の著者として名高い。江湖派に数えられる詩人でありながら、經学というハイパーカルチャーの担い手でもあった。その学問を考えることで、江湖派の多様性と複雑性を考える手がかりを得たい。

『詩緝』には、朱熹の詩經の經說がおびたしく引用され、嚴粲が朱熹の学的成果を吸収して自己の詩經学を構築したことを窺わせる。しかし、両者の詩序に対する態度は、『詩集伝』が反序を標榜するのに対して、嚴粲は尊序の立場を取り、鮮明な対照をなしている。そのこともあって、嚴粲が朱熹の詩經学のどのような部分を吸収したかは考察がなお不足している。

本発表では『詩緝』に引用された朱熹の詩說がどの時期のものなのかを調査し、その結果から、嚴粲が朱熹から何を学んだのか、朱熹の詩經学に対してどのような問題意識を持ちつつ自己の学問を形成したのか考えてみたい。また、尊序と反序という宋代詩經学の各学者を評価する上で試金石のように用いられてきた概念の有効性を再考してみたい。

IV. 僧詩、“晚唐體”與“江湖詩人”

—從《聖宋高僧詩選》談起—

復旦大学教授 朱 剛

卞東波先生《陳起〈聖宋高僧詩選〉叢考》（氏著《南宋詩選與宋代詩學考論》第四章，中華書局2008年）對該《詩選》所收作者、作品考證甚詳，在此基礎上，將陳世隆編《宋僧詩選補》納入視野，再參考另兩部宋僧詩選《中興禪林風月集》、《江湖風月集》，可以考察僧詩在十三世紀後半葉被接受的大致情形。這說明，作為當時社會一個“特殊群體”的僧人（以禪僧為主），開始被視為詩壇之一翼，“詩僧”不再是偶然出現的個體，其全體成為一個“特定作者群”而引起關注。換句話說，這是一個“詩僧”開始具備集團性、社會性的時代，從而放大了“僧詩”的歷史意義。

眾所周知，在文學史上，這也是因“江湖詩人”作為一個群體的存在而引起關注的時

代。故我們有必要從“特定作者群”的角度，探討“詩僧”與“江湖詩人”的關係，以及“僧詩”與所謂“晚唐體”的關係問題。就文學史研究的方法來說，這跟傳統的“流派”、“家族”、“地域”研究有些相似，因為後者實際上也是對“特定作者群”的研究，只不過以各種不同的標準來劃分群體而已。但我以為，超越“流派”研究的思路，從“特定作者群”的角度探討所謂“江湖派”現象，是更切合實際的做法。

V.

劉克莊の鑑定眼

—その詩文創作觀との関連—

九州大学大学院教授 東 英 寿

江湖派を代表する詩人と言われる劉克莊については、詩を中心にこれまで様々な研究が行われてきた。ただ、彼の作品の中で優れていると言われる題跋を読むと、彼が多くの先人の作品を収集していることがわかる。彼は当時の古物のコレクターと言いうことができるが、この点に着目して、劉克莊の詩文創作觀を考察した研究はこれまで少なかった。劉克莊は先人の作を収集し、さらにそれに基づいてしばしば作品の真贋鑑定を行っている。本発表での考察によって、鑑定の際に彼が重視した「気魄」、「力量」という視点は、彼の詩文創作においても重要な観点となることが明らかとなった。つまり、鑑定において重視した視点は、裏をかえせば、詩文創作においても要石となる観点であり、従って劉克莊の詩文創作觀を考える際に、これまで重視されてこなかった劉克莊の鑑定眼の考察は決して看過できないのである。

VI.

詩在“江湖”

—被邊緣化的詩人和作為詩歌場域的“江湖”—

江漢大学副教授 熊 海 英

围绕江湖集、江湖派、江湖诗人、江湖体的研究，已经取得了很多成果；就笔者而言，对一些问题仍然感到困惑，概括为以下几点：

一 由于“江湖派研究”是以陈起刻印的江湖诸集为基础、以入集者为成员，以陈起为诗派核心和枢纽的，而江湖集原貌不可见，其它诸集刊印转刻情形不可考，导致“江湖派”的界定困难重重。故而出现了以“江湖诗人群体”作为研究对象，将这一群体性质视为体制外诗人群体，与“江湖诗派”研究作出区分的趋势。在我看来，这一研究仍然面对着相似的困境：哪些人属于江湖诗人？判断依据诗风还是社会身份？如果以处于体制内外作为分割界限的话，根据是功名（及第/落第）还是经历（仕隐穷达）？况且不同的人出身、经历、心理和写作动机各不相同，时机到来时，他们毅然进取还是甘心淡泊，恐怕很难都一直坚持体制外写作。判定标准的模糊难明导致江湖诗人的集合失去边界；进而如何认识这一人群的社会属性，连带如何认识“江湖体”也都很棘手。且“江湖”与“四灵”的关系仍无定论之外，又增加了江湖诗人与“江湖派”诗人的关系等新问题。所以目前还只能概括地说“南宋江湖诗人群体首先和主要的不是一个以诗歌为中心和纽带的诗人群体，而是一个社会群体；首先和主要的不是一个诗歌创作现象，而是一定历史背景下的社会现象”；“由于时代学养经历等

的相似性，其诗歌风格或风貌可能会呈现出相似性或者趋同性。”虽觉肤廓，也是不得已的事情。

二 对流行于南宋中晚期的诗风，钱钟书先生提出“江湖体”的概念，可谓提纲挈领，极富洞见。不过“江湖体”究竟呈现何种风貌特征、是如何形成的，目前也还未能清晰解析。如果依据目前既有的结论：江湖诗人群体作为文人社会的中下层阶级，创作方法上未能越出晚唐和江西的矩矱，作品的精神境界、题材内容和语言都不离于“俗”，那么“江湖体”在诗歌史上的意义也就止于此，进一步研究的必要性也就有限了。

三 如果说江湖诗人得名缘于书商陈起所刊《江湖集》的话，那么即使不讨论狭义的“江湖派”，陈起和《江湖集》在江湖诗人群体及其创作中的位置和影响也需要重新解释。我也很想知道，一部其中并非只有沦落江湖之士的、还包含了前朝名家、当朝宰相和地方官员以及进士们作品的诗歌集，陈起为何要名之为“江湖”呢？陈起和这部集子到底对当时的“诗坛”发生过什么样的影响？

VII.

江湖與廟堂之間

—晚宋詩歌的邊緣化及詩人群體的游士化—

香港中文大学教授 張 健

晚宋詩歌面臨三重邊緣化：

一、科舉的利益導向使科舉文體成為中心，號稱「內學」，詩歌作為非科舉文類成為邊緣文體被稱「外學」；

二、理學意識形態化之後，理學的文道價值觀成為主流價值觀，詩歌一向收到程朱等理學家的貶斥，因而詩歌在價值世界中被邊緣化；

三、在政治世界中，因理學家進入權力中樞，皇帝愛好理學，理學的文道價值觀瀰漫在政治領域，因而詩歌在權力世界中被邊緣化了。詩人乃是科舉失利與仕途失意人士，成為主流意識形態之邊緣、權力世界之外圍的江湖群體。

但是，這一群體並沒有被權力世界完全拒斥，因為按照宋代的制度設計，朝臣奏事、官員考課等，需要了解參考民間輿論，此即「風聞」「訪聞」之制度，江湖群體作為民間輿論之代表及製造者遂成為官員招攬、禮遇之對象，而江湖人士為了生計及人生前途，也熱衷於結交官員，成為游走於廟堂與江湖之間的游士。本文擬就以上諸問題展開論述，並以戴復古為個案，力圖呈現晚宋詩壇的特殊生態。

〔附録〕過去2回のシンポジウム

□第1回「江湖派研究のパースペクティブ」□

2011年12月26日 於大阪大学

■基調報告■

- ・南宋江湖詩人の位相と研究の可能性
早稲田大学 内山精也 *

■江湖派詩人へのまなざし■

- ・江湖詩人と晋宋風致
——姜夔の生活モードと詩歌風格
香港浸会大学 張 宏生
- ・閑適唱酬、組詩形態と劉克莊晩年詩歌創作の主流
——從幾組“效後村体”談起
復旦大学 侯 体健

■周辺からのまなざし■

- ・元明晩宋観
復旦大学 陳 広宏
- ・江湖詩派と『三体詩』流行之關係考
復旦大学 查 屏球
- ・日本五山における『三体詩』の受容
慶應義塾大学 堀川貴司 *

□第2回「江湖派研究—深化と展開—」□

2012年10月20日 於同志社大学

■基調講演■

- ・『錢鍾書手稿集・中文筆記』と江湖体研究
復旦大学 王 水照

■江湖派詩人へのまなざし■

- ・江湖派詩人の交流における詞の意味
——特に姜夔の詞から
日本大学 保莉佳昭 *
- ・論『千家詩選』と劉克莊及江湖詩派の關係
北京大学 錢 志熙
- ・書棚本唐宋小集發微
四川大学 羅 鷺

■江湖派研究の新領域■

- ・域外漢籍所見南宋江湖詩人新資料及其価値
南京大学 卞 東波
- ・金末元初における非士大夫層の詩作
——河汾諸老とその周辺
慶應義塾大学 高橋幸吉 *
- ・日本近世の江湖詩社の盟主 市河寛齋について
——『北里歌』を中心に
早稲田大学 池澤一郎 *